



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月10日

上場会社名 丸全昭和運輸株式会社 上場取引所 東
コード番号 9068 URL <https://www.maruzenshowa.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 廣次
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 本田 和之 TEL 045-671-5923
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	108,276	3.0	10,920	9.0	11,833	9.1	8,871	8.3
2024年3月期第3四半期	105,105	△1.5	10,019	3.8	10,841	2.8	8,188	18.4

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 9,391百万円 (△13.3%) 2024年3月期第3四半期 10,832百万円 (36.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	442.57	—
2024年3月期第3四半期	403.66	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	192,243	134,227	68.8	6,593.59
2024年3月期	191,357	127,941	65.8	6,283.23

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 132,179百万円 2024年3月期 125,927百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	60.00	—	70.00	130.00
2025年3月期	—	80.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	90.00	170.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	155,000	10.6	16,000	21.2	16,500	15.6	12,000	23.2	598.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	20,618,244株	2024年3月期	20,618,244株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	571,517株	2024年3月期	576,323株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	20,044,633株	2024年3月期3Q	20,286,141株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 有(任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化や、雇用・所得環境の改善、そしてインバウンド需要の回復等により、穏やかな景気回復基調が続きました。しかし、長期化するウクライナ情勢に加えて、中東情勢など不安定な世界情勢や世界的な資源価格や物価の高騰が続き、依然として先行き不透明な状況が続きました。

物流業界におきましては、国際貨物における船積み貨物の輸送量は、輸入消費財や生産財の荷動きが堅調に推移したものの、世界経済の足踏み状態が続いたことが影響し、機械類は減少基調が継続しました。航空貨物は、半導体関連貨物が市況の需給改善と生成A Iの普及本格化により堅調に推移し、また生産財の活発な荷動きが継続したことにより、貨物取扱量は増加しました。国内貨物の輸送量においては、消費関連貨物は堅調に推移した一方で、生産関連貨物、建設関連貨物ともに低調に推移し、総輸送量は減少となりました。

更に、長年に亘って問題となっているドライバー不足や同業者間の価格競争などの問題に加えて、2024年問題への対応が求められました。そしてトラックの燃料価格も、原油価格が上昇した影響により、高止まりで推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは、2022年度を初年度とする3か年にわたる第8次中期経営計画の最終年度を迎えました。本計画最終年度の取り組みとして、「成長ターゲット」では、ターゲット企業に対する新規受注を目指し更なる営業の推進、「事業競争力の強化」では、新たな物流プラットフォームを構築し、持続可能な物流サービスを提供できる基盤の整備に取り組むほか、国内外において新たな物流拠点の確保を推進し、ネットワークの拡充を図っております。そして「企業基盤の強化」では、次期基幹システム(MALoSシステム)の開発を着実に進めるとともに、当社の人的資本の向上を推進するための人材育成や財務・非財務の活動を結びつけた情報開示の強化、協力会社を含めたサステナビリティ活動など各施策を実行し、当社グループ全役員・社員が一丸となり、目標売上・利益の達成に努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は108,276百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は10,920百万円(前年同期比9.0%増)、経常利益は11,833百万円(前年同期比9.1%増)、そして親会社株主に帰属する四半期純利益は8,871百万円(前年同期比8.3%増)となりました。

セグメント別の状況につきましては、次のとおりであります。

<物流事業>

貨物自動車運送事業については、関東地区では、建設機械や住宅資材の取扱い減少がありましたが、IT機器や住宅設備機器の取扱い増加がありました。中部地区では、住宅設備機器や断熱材の取扱い増加がありました。関西地区では、油脂や住宅資材、電力機器関連の取扱い増加がありました。さらに、モーター関連製品の取扱い増加もあり、貨物自動車運送事業全体では、増収となりました。

港湾運送事業については、関東地区では、建設機械の取扱い減少がありましたが、化成品やプラント設備、発電用原料の取扱い増加がありました。港湾運送事業全体では、増収となりました。

倉庫業については、関東地区では、化成品やIT機器の取扱い増加がありましたが、医薬品や日用雑貨、木質ペレットの取扱い減少がありました。中部地区では、住宅設備機器の取扱い増加がありました。関西地区では、電力機器関連の取扱い増加がありましたが、合成樹脂や日用雑貨の取扱い減少があり、倉庫業全体では、減収となりました。

鉄道利用運送事業については、穀物やロール紙の取扱い増加があり、増収となりました。

物流附帯事業については、外航船収入では、プラント設備の取扱い増加があり、増収となりました。内航船収入では、発電用原料や穀物の取扱い増加があり、増収となりました。梱包収入では、機械部品の取扱い増加があり、増収となりました。物流附帯事業全体では、増収となりました。

その結果、物流事業の売上高は前年同期比2.8%増収の93,710百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同期比9.3%増益の9,354百万円となりました。

<構内作業及び機械荷役事業>

構内作業については、発電用原料やステンレス製品の取扱い増加があり、構内作業及び機械荷役事業全体では、増収となりました。

その結果、構内作業及び機械荷役事業の売上高は前年同期比4.3%増収の12,698百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同期比7.9%増益の1,145百万円となりました。

<その他事業>

地代収入については、新規取引開始があり、増収となりました。その他事業全体では、増収となりました。

その結果、その他事業の売上高は前年同期比7.1%増収の1,866百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同期比4.4%増益の420百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期の総資産は、192,243百万円となり、前期末に比べ885百万円増加しました。

このうち、流動資産は73,949百万円となり、前期末に比べ646百万円減少しました。主な要因は、前払費用が169百万円増加し、現金及び預金が858百万円減少したことによるものです。また、固定資産は118,293百万円となり、前期末に比べ1,532百万円増加しました。主な要因は、建物及び構築物が1,227百万円減少し、無形固定資産のその他に含まれているソフトウェア仮勘定が1,389百万円、建設仮勘定が770百万円、土地が532百万円増加したことによるものです。

流動負債は31,037百万円となり、前期末に比べ8,330百万円減少しました。主な要因は、短期借入金が5,418百万円、未払法人税等が1,192百万円、支払手形及び営業未払金が1,059百万円減少したことによるものです。また、固定負債は26,978百万円となり、前期末に比べ2,929百万円増加しました。主な要因は、長期借入金が2,592百万円増加したことによるものです。

純資産は134,227百万円となり、前期末に比べ6,286百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金が5,815百万円、その他の包括利益累計額が411百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後のわが国経済は、他の先進各国と比較すると、新型コロナからの経済回復が遅れていたものの、その後は、社会経済活動の正常化が順調に進み、雇用情勢や所得環境の改善などを背景に今後も緩やかな回復基調で推移すると思われれます。しかしながら、円安の継続や物価高騰、中国経済の先行き懸念、中東情勢やウクライナ情勢など、わが国経済を取り巻く世界情勢は依然として不透明な状況が継続するものとみられます。

このような経営環境のなか、創立90周年を記念して作られた新しいブランドスローガン「物流は、愛だ。」のもと、当社グループ全役員、社員が一丸となって、お客様の満足度で世界一を目指し、物流に変革を起こし続けて、お客様のご厚情にお応えすべく、目標売上・利益の達成に努めてまいります。

2025年3月期通期の業績予想につきましては、現時点では2024年11月11日に公表いたしました業績予想に変更はありませんが、市場環境の変化等により、業績予想の修正を行う必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,302	17,443
受取手形、営業未収金及び契約資産	30,286	30,342
有価証券	19,199	19,199
貯蔵品	337	373
前払費用	912	1,082
その他	5,567	5,518
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	74,596	73,949
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	37,131	35,904
機械及び装置(純額)	7,700	7,639
船舶(純額)	0	0
車両(純額)	933	830
工具、器具及び備品(純額)	269	259
リース資産(純額)	2,036	2,236
土地	30,066	30,598
建設仮勘定	301	1,072
有形固定資産合計	78,439	78,540
無形固定資産		
のれん	157	—
その他	2,937	4,223
無形固定資産合計	3,095	4,223
投資その他の資産		
投資有価証券	27,526	27,764
長期貸付金	141	141
繰延税金資産	662	632
退職給付に係る資産	925	1,034
その他	5,987	5,974
貸倒引当金	△16	△16
投資その他の資産合計	35,226	35,530
固定資産合計	116,761	118,293
資産合計	191,357	192,243

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	13,954	12,894
短期借入金	15,693	10,274
未払金	1,034	1,069
未払法人税等	2,772	1,579
未払消費税等	1,125	834
未払費用	2,057	2,252
契約負債	42	26
賞与引当金	1,764	889
役員賞与引当金	3	0
その他	919	1,214
流動負債合計	39,367	31,037
固定負債		
長期借入金	12,982	15,575
繰延税金負債	6,914	7,105
役員退職慰労引当金	67	53
補償損失引当金	571	571
退職給付に係る負債	412	409
資産除去債務	891	902
その他	2,208	2,361
固定負債合計	24,048	26,978
負債合計	63,416	58,016
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,127	10,127
資本剰余金	9,960	9,967
利益剰余金	94,880	100,696
自己株式	△1,608	△1,590
株主資本合計	113,361	119,201
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,616	11,897
為替換算調整勘定	803	941
退職給付に係る調整累計額	147	139
その他の包括利益累計額合計	12,566	12,978
非支配株主持分	2,013	2,047
純資産合計	127,941	134,227
負債純資産合計	191,357	192,243

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
営業収益	105,105	108,276
営業原価	91,133	93,557
営業総利益	13,971	14,719
販売費及び一般管理費	3,951	3,799
営業利益	10,019	10,920
営業外収益		
受取利息	10	36
受取配当金	790	872
持分法による投資利益	37	47
雑収入	146	168
営業外収益合計	984	1,125
営業外費用		
支払利息	145	177
雑支出	16	34
営業外費用合計	162	212
経常利益	10,841	11,833
特別利益		
固定資産売却益	97	51
投資有価証券売却益	1,242	1,218
補助金収入	190	58
受取保険金	50	24
特別利益合計	1,580	1,353
特別損失		
固定資産除売却損	18	104
固定資産圧縮損	173	—
損害賠償金	56	35
特別損失合計	248	140
税金等調整前四半期純利益	12,173	13,046
法人税、住民税及び事業税	3,691	3,943
法人税等調整額	210	128
法人税等合計	3,901	4,072
四半期純利益	8,272	8,974
非支配株主に帰属する四半期純利益	83	102
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,188	8,871

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	8,272	8,974
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,086	219
為替換算調整勘定	438	138
退職給付に係る調整額	△5	△8
持分法適用会社に対する持分相当額	40	67
その他の包括利益合計	2,559	417
四半期包括利益	10,832	9,391
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,740	9,282
非支配株主に係る四半期包括利益	91	108

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。これによる前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注3)
	物流事業	構内作業及び 機械荷役事業	計				
売上高							
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	91,183	12,178	103,362	1,742	105,105	—	105,105
顧客との契約から生じる 収益	91,183	12,178	103,362	1,718	105,081	—	105,081
その他の収益	—	—	—	24	24	—	24
外部顧客への売上高	91,183	12,178	103,362	1,742	105,105	—	105,105
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	414	414	△414	—
計	91,183	12,178	103,362	2,156	105,519	△414	105,105
セグメント利益	8,554	1,062	9,616	402	10,019	—	10,019

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業、警備業、産業廃棄物処理業、不動産業、保険代理業、自動車整備業等のサービスを実施しております。

2. 調整額△414百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注3)
	物流事業	構内作業及び 機械荷役事業	計				
売上高							
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	93,710	12,698	106,409	1,842	108,252	—	108,252
顧客との契約から生じる 収益	93,710	12,698	106,409	1,842	108,252	—	108,252
その他の収益	—	—	—	24	24	—	24
外部顧客への売上高	93,710	12,698	106,409	1,866	108,276	—	108,276
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	417	417	△417	—
計	93,710	12,698	106,409	2,284	108,694	△417	108,276
セグメント利益	9,354	1,145	10,499	420	10,920	—	10,920

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業、警備業、産業廃棄物処理業、不動産業、保険代理業、自動車整備業等のサービスを実施しております。

2. 調整額△417百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	3,682百万円	3,668百万円
のれんの償却額	432	157

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年2月10日

丸全昭和運輸株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯塚 正貴

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 陽子

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている丸全昭和運輸株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年10月1日から2024年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。